



浅草から
ひと駅に誕生した
新しき街へ

こんにちは、あずまです。待ちに待った東京スカイツリー®へ、家族みんなで"行ってきました。4月に申し込んで、抽選に当たったのはこの日の14時に入場のチケット。それまで、駅周辺の散策も楽しみました。リニューアルした『とうきょうスカイツリー駅』は、まさに見違えるほど美しくなりました！



業平武司

業平家の長男であずまの弟。サッカーと鉄道を愛する高校生。



業平道子

あずまの母親。小学生向けの英会話教室を経営する。趣味は園芸。



業平鉄男

あずまの父親。食品会社に勤める。歴史とジャズをこよなく愛するサラリーマン。



業平あずま

業平家の長女。母親が経営する英会話教室を手伝う。趣味は旅行。



4月20日にリニューアルオープンした「とうきょうスカイツリー駅」。環境に配慮した設備、コンコースの壁画、ステーションコンシェルジュによるわかりやすい案内など、注目点がいっぱい。特急スペーシアも、リょうも一部発着します！

とうきょう
スカイツリー
（旧・業平橋）①

東京スカイツリータウン®の開業に伴って、業平橋から駅名を改称しリニューアルした「とうきょうスカイツリー駅」。改札は正面口のほかに東口も整備され、コンコースは11倍の広さに。上り特急「スペーシア」「りょうも」の全てと、下り特急の一部も停車する「新しき街」の玄関口として生まれ変わりました。さあ、江戸の「粋」と東京下町の「雅」を求め、散策のスタートです。



ランチに入った「花寿司」というお店。ランチだと握りやちらしが800円からいただけます。店内には東京スカイツリーの手作り模型が何台も飾られ、きれいな照明もついていました。とてもアートホームなお店でした。(MAPの㊦)



北十間川沿いの遊歩道を散策しました。ゴミを素材にしたアート作品を展示する「アトリサイクルボックス」というユニークなゴミ箱もありました。将来はこの川を、遊覧船が行き来する構想があるそうですよ。(MAPの㊧)



天望シャトルという超高速エレベーターで、一気に天望デッキのフロア350へ。扉が開くと大パノラマが！雨天時はパノラマスクリーンにこの「江戸一目漫遊記」が上映されるそう。浮世絵が立体的に加工されて動き出すんです。(MAPの㊨)



いよいよ東京スカイツリーに入場する時間になりました。4F入口フロアにある「SUPER CRAFT TREE」という壁面アートも素晴らしいですよ。駅の改札機のような機械にチケットをかざして、出発です。(MAPの㊩)

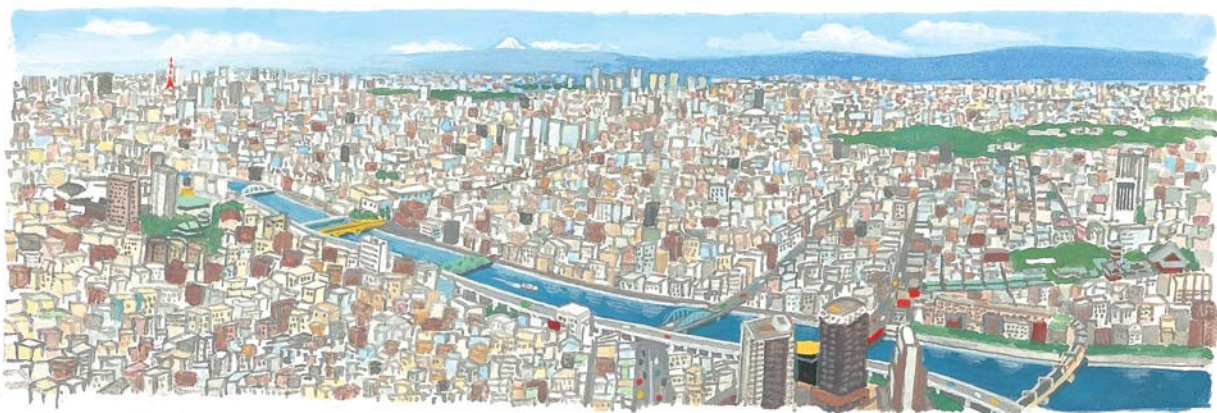
いざ東京スカイツリー天望デッキへ
でもその前に……

富士山は見えるのかな……。いったい眼下にはどんな景色が広がっているんだろう——やっとなにした入場券です。いまずぐ天望デッキへと上がってみたい。その気持ちはよく分かります。併設の商業施設「東京ソラマチ」も見たいし水族館にプラネタリウムだって……。まあ、そう焦らずに。まずは指定の時間まで駅周辺をゆっくりと歩いてみてはどうでしょう。下町情緒を色濃く残す街並みと出合えるはずですよ。

とうきょうスカイツリー駅のそばを流れる北十間川河川敷に整備された「おしなり公園」。遊歩道を行けば、海の香りを感じるのですが、その理由も後に分かります。せっかくだから東武橋を渡り浅草通りまで出て、いろんな角度から東京スカイツリー®を存分に見上げてください。

そうだ、川面に映る、逆さ東京スカイツリー®を見たいのなら、川沿いをさらに先へと進んでください。2年ほど前、塔体はまだ300mを超えたところのころは、十間橋の上から工事中の全景が映り込んだものですが、いまはちょっと無理かも……。そうこうするうち、そろそろ指定の時間です。

東京スカイツリーの内部に一歩足を踏み入れた瞬間から、みなさんは新たな物語の世界へと導かれていきます。天望デッキへ向かう天望シャトルは4階からの出発です。なお、7月11日以降に販売を開始する当日券も、この4階チケットカウンターで購入することができますようになります。



フロア350で"天望回廊"までのチケットを購入して、再び天望シャトルへ。今度はシースルになっていて、外の景色も見られます。シャトルを降りた地点は、高さ445mのフロア445。ここからスロープを螺旋状に歩いていくと、最高到達点のソラカラポイント(451.2m)へ。東京タワーも富士山も一望にできる、まさに日本一の眺望です。(MAPの㊥)



フロア340には、下が透けて見える「ガラス床」があり、スリル満点！眺望を満喫して、天望シャトルで地上へ。東京スカイツリータウン[®]には、商業施設の東京ソラマチ[®]や、水族館にプラネタリウムもあります。また報告しますね。(MAPの㊤)



天望デッキに戻り、フロア340の「SKYTREE CAFE」で、絶景を眺めながら一休み。オリジナルスイーツもありました。フロア345には、「新日本料理」をコンセプトにした「Sky Restaurant 634 (musashi)」もあり！ (MAPの㊦)

東京スカイツリー天望回廊の最高地点は451.2m。空中散歩を満喫！

いよいよです。入場券を手でゲートを抜け、天望シャトルへ乗り込みます。扉が開まると、高さを表示する数字がみるみる上がっていき約50秒、あっという間に地上350mの天望デッキに到着です。まあ、見てください、この絶景を――。

あれが隅田川、あつちは荒川、そしてその先が東京湾。さつき歩いた北十間川から海の香りが漂ってきた理由も、これで分かります。晴れていなくても楽しみ方はさまざまに用意されています。天望デッキは5mごとに3層のフロアがあり、ショップやレストラン、カフェがあります。注目のガラス床が体験できるのはフロア340です。是非、最後にチャレンジを！

仮にあなたが筋金入りの高所恐怖症でも、ここまで来たら上がりますよ、あと100m――。フロア350で天望回廊へのチケットを購入したら、ここからの天望シャトルがまた凄い。シースルの扉に驚いてはいけません。上を見ると、天井もシースルなんです。そここうするうちに到着、天望シャトルの扉が開きます。老若男女を問わず、どんな人でも思わず声が出ますから、この眺望には――。全面ガラス張り、決して大げさではなく、それこそ空中をそる歩きです。おっかなびっくり、ぐるりと回廊をめぐれば最高地点は451.2m。360度スケルトンの大パノラマビュー。いざカメラを構えても、どう撮っているかわからない。そんな高さで眺めの不可思議な空間をご堪能あれ。帰り、5階の出口フロアへ降下しても、浮遊感の余韻が残ります。

